

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鋳工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注)下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)。

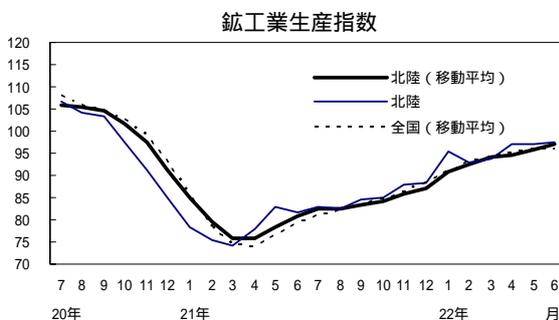
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 22 年 5 月)	今回 (平成 22 年 8 月)	
景況判断	持ち直しの動き	持ち直している	
個人消費	持ち直しの動き	持ち直している	
雇用情勢	持ち直しの動き	持ち直している	
住宅建設	大幅に減少	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は持ち直している。

一般機械は、自動車産業向け金属工作機械や、建設機械、繊維機械の海外向けが堅調なため、増加が続いている。電子部品・デバイス、前期比マイナスとなったものの、半導体素子・集積回路などの電子部品の生産は堅調に推移している。化学は、医薬品などが増加している。金属製品は、住宅版エコポイントによるリフォーム需要等により、増加が続いている。繊維は、自動車内装向けの非衣料繊維等が増加している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の大線は後方3か月移動平均。

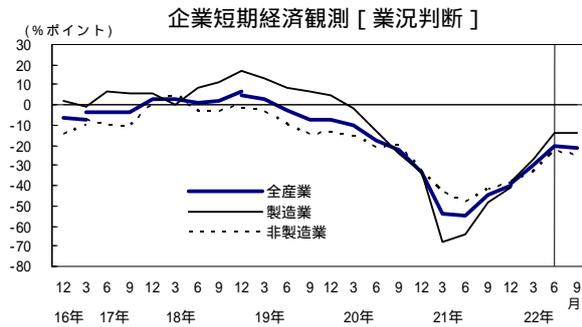
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	16.2	24.1	20.4	-	-
電子部品・デバイス	15.8	14.4	8.5	-	-
化学	14.5	2.7	8.5	-	-
金属製品	9.2	12.4	1.1	-	-
繊維	8.5	4.6	2.7	-	-
鋳工業	100.0	7.8	3.4	-	-

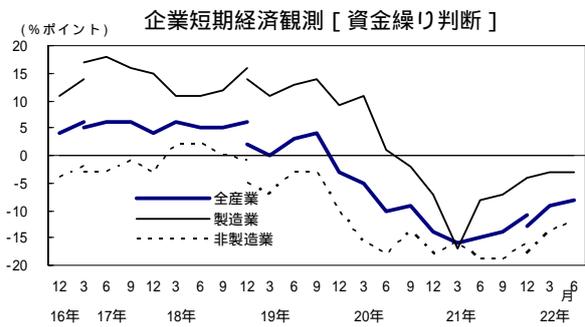
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4~6月期は速報値。
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅がおおむね横ばいとなっている。

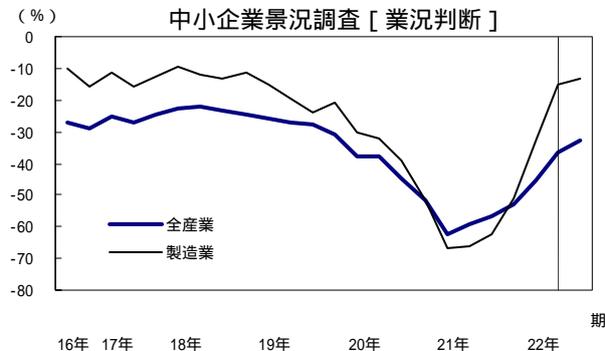
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

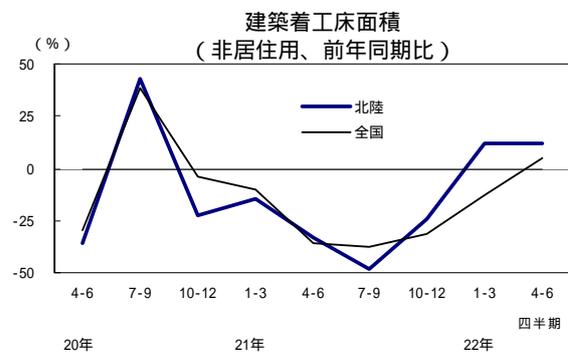
「債務整理の相談が減っている(司法書士)」など、「やや良くなっている」とする回答が多く見られた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	33.4(0.5)	22.0(15.4)
製造業	35.6(0.7)	31.7(13.6)
非製造業	28.6(0.2)	2.4(20.4)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

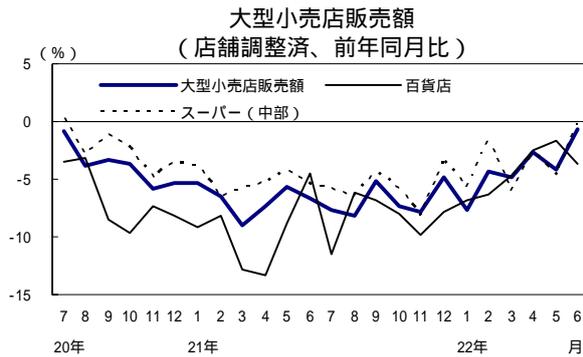
(1) 個人消費は持ち直している。

大型小売店販売額

百貨店は、4月は、食料品は前年並みに推移し、衣料品については、天候不順の影響があったものの、一部で販促施策が奏功したことから、前年比の低下幅が縮小した。5月は、衣料品が、低温により、初夏物の動きは全般的に弱かったが、落ち込みの大きかった高級衣料品のマイナス幅が縮小したこともあり、前年比の低下幅が縮小した。6月は、衣料品では、プレセール縮小・廃止等、食料品では、中元が苦戦するなど、前年比の低下幅が拡大した。スーパーは、6月に飲食料品や衣料品が好調で、23か月ぶりに前年を上回ったこと等から、堅調に推移した。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「猛暑による消費拡大がみられる。日よけ、寒冷関連グッズ、土用の丑の日の関連商品など積極的な購買がみられる(スーパー)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

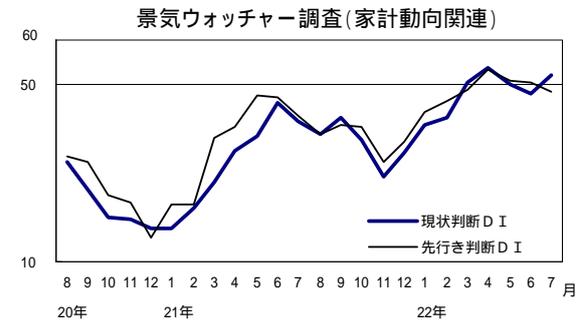
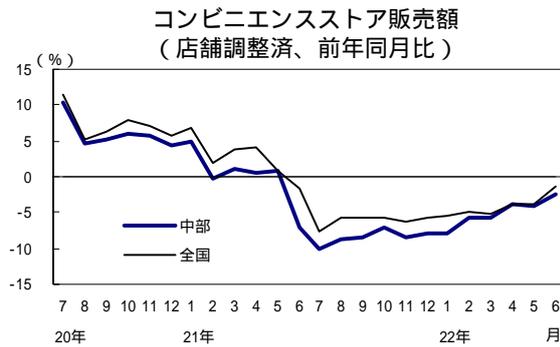


	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月
大型小売店	7.1	6.5	5.8	2.5
百貨店	8.6	8.5	5.9	2.6
スーパー	6.6	5.8	5.7	2.5
乗用車	2.1	24.1	23.6	24.2
景気ウォッチャー	40.9	33.7	44.5	50.6

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

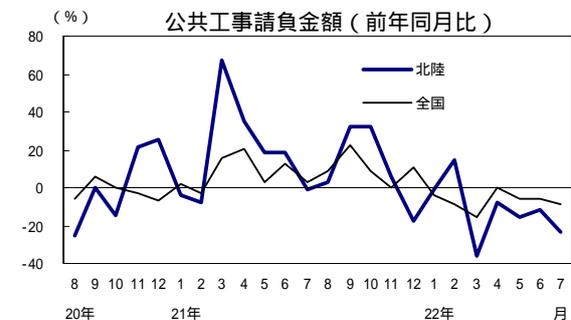
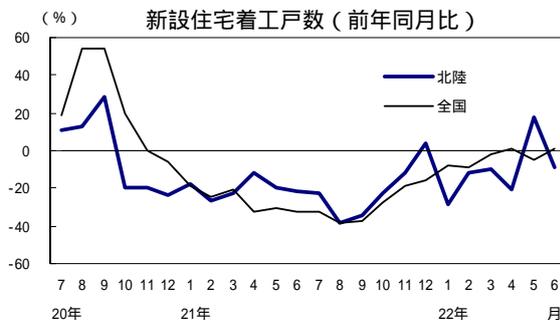
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、分譲で前年を上回ったが、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

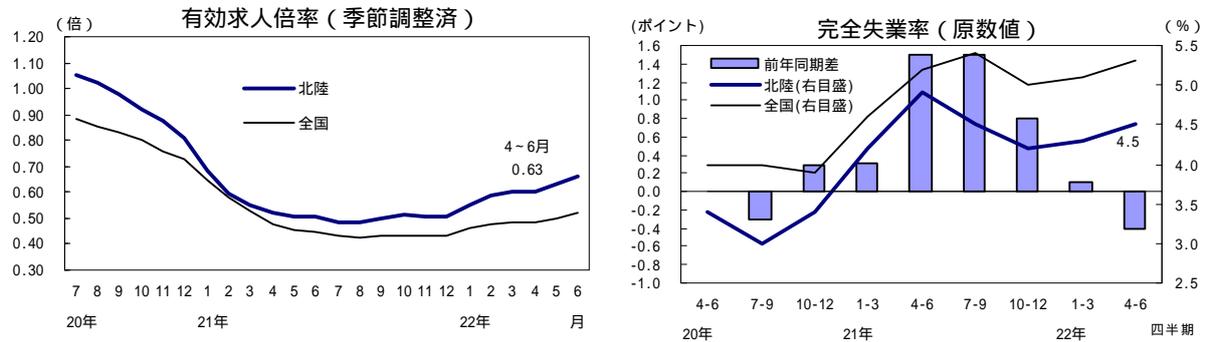


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(6月)[雇用関連(現状)]

「派遣・紹介求人とも退社社員の交代要員ばかりで増員によるものはほとんどない(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月	22年7月
倒産件数	107	117	81	74	21
(前年比)	1.8	12.0	30.8	28.2	41.7
負債総額	421	409	291	143	28
(前年比)	48.5	22.5	48.5	31.7	89.0



景気ウォッチャー調査(6月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・取引先の中なかで、製造業や販売業では量的な面では前年より回復しているが、売上は円高の影響もあって、伸びていない(税理士)。

<先行き>

・9月までは、販売は現況の通り比較的良好に推移していくが、受注は次第に厳しくなる(乗用車販売店)。

